

京都市西京区「ふらっと・西京」第4回開催後コメント

今瀬政司（京都経済短期大学准教授／NPO 法人市民活動情報センター代表理事）

◎テーマ「桂湯で沸かしてみたいコト・ヒト・オモイ→桂湯をもり上げたい」について

・まちなかの銭湯は、古くから住民の人たちのふれあいの場となって、まちのコミュニティを育んできました。各家々のお風呂の普及などに伴って銭湯が激減してきていますが、コミュニティ再生の必要性が高まる中、まちなかの銭湯が持つ「コミュニティを育む拠点」としての機能が見直されてきています。ふらっとトークで様々なアイデアが出されたように、銭湯での入浴そのもの、あるいは営業時間以外の時間を使って、住民の方々が集って交流イベントなどを積極的に行って頂くと良いと思います。西京区に残る数少ない銭湯を守り活かして育てていけることを期待しています。

◎テーマ「災害時どうしたらいいの？」について

・災害が発生した時に自分たち住民はどうしたらいいか、行政はどうすべきか、あるいは災害発生に向けて事前の防災の取組みを自分たち住民はどうしたらいいか、行政はどうすべきか、様々な意見が交わされました。その中で大事なことは、今後起こり得る災害発生に向けて、まず何よりも「当事者」としての意識をどうやって持ち続けていくかだと思います。災害には、水害、地震、津波、火災、土砂災害、原発災害など様々なものがあります。それら災害による被災というものは、現実的には自らが身をもって経験してみないと分かりにくいものですし、経験しても時間が経つと意識が薄れがちになっていくものです。常日頃、意識を持っていれば、自ずと防災への備えも進みやすくなるものだと思います。日常的に意識を持ち続けられるような取組みを期待したいと思います。

◎テーマ「桂のふらっと町中保健室をつくりたい」について

・「町中保健室」として、放課後学び教室、居場所、子ども食堂、ママカフェ、駄菓子屋さんなど、様々な具体的キーワードが出されて話し合いが行われたようです。それらご意見に共通するものは、住民どうしの触れ合いの場所、つながる場所、交流サロンのような場所が西京区のまちに足りないとの思いでしょう。そして、そうした場所を新たに作り、増やしていきたいという共通の思いであったと思います。人と人が2人以上集まれば、そこは触れ合いの場所、つながりの場所になります。自分と友人の2人から、3人、4人、5人、10人、15人、20人と少しずつ増やしていくことでも良いと思います。どんな場所、空間でも良いので、人と人が集まる機会が西京区のまちなかで増えていくことを期待します。

◎テーマ「朝かゆ会がしたい！」について

・前回に引き続きのテーマで、話し合いの中身が深まり、具体的な展開が見え始めたようで良かったと思います。話し合いの中で出されたご意見のように、「どこで行うか、どんなテーマに焦点を当て、どんな内容で行うか、どのような人たちの参加を得ていくか、どのような団体と協力するか、行政との協力関係をどうするか、どんな専門家に知恵をもらうか、衛生面など条件対策はどうするか、等々」、現実的で具体的な観点からの話し合いになり、今後、体を使っての行動の段階に一步一步進むことを期待しています。「食」を伴う取組みでは、様々な条件や法律など、思わぬハードルが目の前に現れることもあるかと思いますが、とても有意義な取組みだと思いますので、小さいところからでも実現されることを期待します。

◎テーマ「けんこうのわ」について

・「けんこうのわ」をどうしたらいいかの話し合いで、「年齢に関係なくできる企画」についてのご意見が出されたようです。高齢の方々と若い方々が交流できる機会が生まれれば、お互いに刺激を受け、健康にも新たな企画にも相乗効果を持つものだと思います。今後も話し合いを続けられ、さらには年齢の異なる者どうしが集まって話し合いが深まっていき、その企画が少しずつでも具体化することを期待しています。